



# PipeLine



## No.57 Contents

特集「初年次科目」	P1~10
共通教育自己点検・自己評価部会の活動	P11~12
共通教育実施委員会からのお知らせ 共通教育係よりご挨拶	P13

特集

# 初年次科目

初年次科目授業の感想、意義、  
受講にあたってのアドバイス等

## 初年次科目

「共通教育科目」には、「初年次科目」、「教養科目」があります。今号ではその内の「初年次科目」を取り上げています。これは、入学後すぐに高校以前の学びの転換を図り、自分で考え行動できる力、他者とコミュニケーションできる力、表現できる力などを修得するものです。

「初年次科目」は、「何をなぜどのように学ぶのか」を学ぶ「大学基礎論」、専攻する学問の輪郭を学ぶ「学問基礎論」、「大学英語入門」、「英会話」、「情報処理」、課題探求及び解決能力を身に付ける「課題探求実践セミナー」という必修科目からなっています。

## Part 1 ▶ 学生記者から

### 初年次科目の意義

人文社会科学部  
人文社会科学科  
3年

野村 由稀乃

初年次科目では、大学での学びの土台を作りながら、様々な専門分野への関心を高める機会が多く提供されています。例えば、大学基礎論と学問基礎論では、先生方が選定した図書の中から前期と後期で1つずつ興味のあるものを選択し、少人数でその内容の議論などを行います。この活動は、自分が今後どのような専門的研究を行いたいのか考える良いきっかけになりました。私はもともと言語に興味があり大学に来ましたが、どの言語の何について研究したいのかは決まっていませんでした。活動を通して、日本語学とアフリカ言語学をそれぞれ専門にしている先生と関わり、刺激を受け、早くから自分が大学で何を学びたいのか明確化できたのは非常に良かったと思っています。初年次科目での学習の際には、レポートの書き方等、基礎的な知識を身に着けるとともに、自分の専門的な学びの道も意識しながら受講することをお勧めします。

### 「初年次科目」

総合人間自然科学研究科  
人文社会科学専攻  
1年

和田 結衣

4年ほど前、当時の私は初年次科目の単位取得への心配と挑戦が入り混じった心境でした。中でも特に記憶に残っているのが大学英語入門で、今まで受験のために散々勉強したのに、なぜ大学に入っても英語を勉強する必要があるのかと考えていました。学部時代を通して、英語論文を読む時や院試の勉強の時など様々な場面で英語が必要になり、大学英語入門で基礎を学び直せて良かったと思っています。

大学英語入門の授業を通して先生は学生に、なぜこの文章ではこの単語・文法が使用されるのか、なぜこの文章の訳はこうなるのか、その理由について論理的に説明する思考力を養わせたかったのだと私は解釈しています。辞書を片手に文法一つ単語一つに何分も時間をかけて読み解く作業は大変でしたが、考えた理由が当たった時は謎を解いたような達成感がありました。「論理的に説明する思考力」はなにも語学だけでなく全ての授業に通じるので、

初年次科目を通して理由を考える癖を付けて欲しいです。きっと学部4年間を通して、卒業論文を執筆する時にも役に立つはずですよ。

教育学部  
学校教育教員養成課程  
3年

田中 康仁

私は高知大学教育学部の社会科教育コースに所属しております3年生の田中康仁です。現在まで様々な教職に関わる科目を履修してきました。その中でも1年生の時に履修した初年次科目は今の自分の基盤になるものです。特にフレンドシップの講義ではチームとして1つの課題に取り組む協調する力が身につきました。1人では達成することが困難なこともチーム単位で取り組むことで達成することができました。またチームで取り組むことで自分の考えと他人の考えを照らし合わせることができるので、自分自信の教職知識のスキルアップもすることができました。そして初年次科目では活動に対するフィードバックが非常に充実していました。今の自分に足りない力は何か、自分の今後武器となる強みは何かなどを把握することができました。今振り返れば初年次科目は全ての教職科目に精通している重要な時間でした。教育学部でのまず初めの大きな一歩を踏み出すきっかけになる科目ですので、新入生のみなさんには真摯に取り組んで、自分の強みを探して欲しいです。

## 初年次科目について

教育学部  
学校教育教員養成課程  
3年

田口 真優

私にとって初年次科目はとても心強いものでした。大学生になり不安や緊張がある中で初年次科目は1年生みんなが履修するので、分からないこともすぐに周りの子に聞くことができ、安心して受講できました。またどの授業でもグループ活動が多く取り入れられているので友達の幅も広がり、どんどん回数を重ねるごとに仲が深まります。そのため、すぐに友達ができるのも利点です。またグループで課題解決のためにみんなで協力して考えていくことで、様々な思考に触れることができ、とても新鮮でした。教師はコミュニケーション能力が求められる職業なので大学生同士の交流が深い初年次科目は力をつけるのに良い機会です。そして特に、大学基礎論やフレンドシップ、学問基礎論では教育や子ども理解などについての基礎を学びます。友達の教育に対する考えや教師になりたいという気持ちを知ることができて自分自身の将来の夢への意欲やモチベーションを高めることができます。

このように初年次科目は仲間と共に学んでいくためとても楽しく、そして、社会に求められる力の向上にも役立つものであったなという印象があります。

## 『初年次科目は意識的な取り組みが大切』

初年次科目は大学生活において大切なことを学ぶ科目だと考えており、今回はその中でも「学問基礎論」についてお話したいと思います。

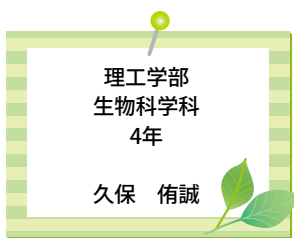
学問基礎論は前半が学科の先生方の研究内容と自己紹介、後半は各グループで与えられたテーマについてプレゼンをおこなうものでした。先生方の講義はどれも非常に興味深く研究室配属の参考にもなるので、全コマ、先生方の研究紹介であれば良いのにと内心思いました。

さて、学問基礎論を受講する際、意識してもらいたいのは「準備の大切さ」だと思います。研究内容を聴くことで4年次の自分を逆算して考えられるため、準備期間である3年次までの過ごし方の参考になります。プレゼンでは質疑応答をおこないますが、いかにテーマをグループで深く考えられたかが発表に現れますので、しっかりと話し合い準備することが大事です。

課題への準備にかけた時間は必ず成果として現れます。大学生活以降にも活かされる経験になりますので、ぜひ積極的に学問基礎論に取り組んでみて下さい。

理工学部  
化学生命理工学科  
4年

長崎 大明



理工学部  
生物科学科  
4年

久保 侑誠

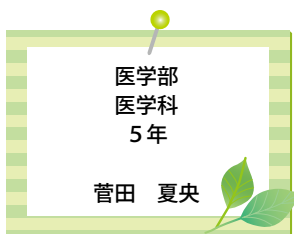
## 『初年次科目で得たこと』

初年次科目全体を通して最も印象に残っていることは、テーマごとに議論していくというグループワークがとて多かつたということです。

社会に出るにあたって議論するという事は、とても重要になると思います。私は大学に入るまで、何かをグループで議論するという活動が非常に少なく、議論する力があまりありませんでした。また、大人数で話すことがあまり得意ではありませんでした。しかし、この初年次科目を通して色々なことをグループで議論するうちにどういったことをすれば良いのかということや、話のまとめ方というのが自然と身につく、現在は議論することに対して不安や苦手意識がなくなりました。

このようなことから初年次科目というのは今後必要となる力を身につけるための意義があるというように感じました。また、学科のいろいろな人と議論をするため、学科内での友達もできるという、本当に大学の最初には欠かせない講義であると思いました。

## 大学基礎論について



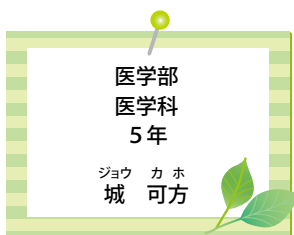
医学部  
医学科  
5年

菅田 夏央

医学科の初年次科目は一般教養を学ぶものだけでなく、将来医療に従事する私たちにとって思考構築、研究への取り組みなどを体験させる科目があります。その中の一つに、看護学生とともに学習する大学基礎論があります。この授業では、与えられた医療時事や臨床症例について、患者と医療者双方の視点から探究していきます。個々でそれぞれ意見をまとめた後、他者（医学生、看護学生、多職種の医療従事者）とグループディスカッションを通して情報共有・意見交換をし、最後に口頭発表やレポートでその他の人にプレゼンテーションします。

大学基礎論を通して学んだ症例・医療時事・臨床研究などは、2年次以降で学ぶ診療科別講義や研究の基盤となります。私は、2年次以降続けている医学情報研究において、大学基礎論で培った情報収集能力、コミュニケーション能力、データ分析能力がとても役に立っています。また、高学年になるにつれ、自然と専門知識をベースに医療時事を考えるようになります。そんなとき、ふと初年次に学んだ時の印象や議論した内容に立ち返ると自分の視点の偏りに気づかされます。

## 「初年次科目の学びから得られること」



医学部  
医学科  
5年

ジョウ カホ  
城 可方

医学部では医学の進歩に伴い、学習量が増加、それによりカリキュラムは過密化してきています。その中で1年次から医学の専門科目を学ぶべきで、現在の1年次科目を減らして医学の勉強に当てるべきという意見も聞かれます。

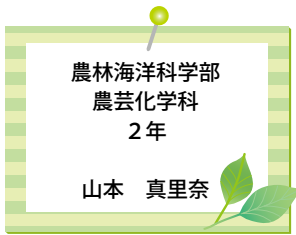
ですが、1年次の基礎教養科目はやるべき重要な意義があると私は思います。

1年次に学習する学問基礎論や大学基礎論、課題探求実践セミナーなどの講義は、グループ学習を通して将来実践するチーム医療の基礎、将来重要となるプレゼンテーションスキルについて学ぶ機会、レポート作成手法の基礎など様々な学びを私に与えてくれました。

もしその勉強がなければ医学部の勉強は人体の機能と構造、異常を学ぶだけの専門学校と化してしまうのではないのでしょうか。

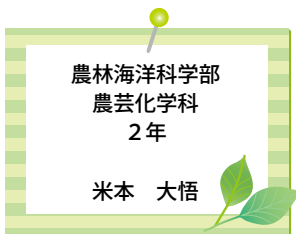
医療者は専門的学習の知識はもちろん大切ですが、それと同じくらい将来患者さんと接する職業であるということから、コミュニケーションスキルを含め幅広い能力が必要とされます。初年次科目はそういった専門的知識以外の部分の、人間力を養う機会を提供してくれます。授業を受けているときは実感が湧かないかもしれませんが、私は高学年になりその重要性を感じています。

## 「学問基礎論」から学んだこと

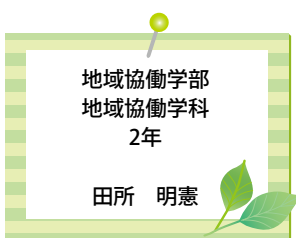


初年次科目の一つに「学問基礎論」があります。私が所属する学科の「学問基礎論」では、少人数のグループに分かれて所属学科の専門分野の課題を発見し、その問題点やその課題に対して行われている研究などを調べ、自分たちならどのような研究をするかを考えて発表しました。この講義を通して学べることは様々ありますが、私が特に身についたと思うことは4つあります。それは、「自分の専門分野についての理解」、「自分で調べる力」、「議論する力」、「プレゼン力」です。自分の専門分野について、自ら調べたこと以外に、他の人が調べたことも知ることが出来るので、その後学んでいくモチベーションになります。また、情報収集の仕方を学び論文にも多く触れるので、自分で調べる力が身につきます。更に、グループディスカッションでグループの意見をまとめ、その結果をプレゼンすることで、大学やその後の将来に必要な力や知識を得ることが出来ます。この講義で学ぶことは確実に自分の力になるので、積極的に参加し、自分が興味あることを学ぶきっかけにして下さい。

## 「英会話」のクラス分け



農林海洋科学部の「英会話」では、最初にクラス分けのためのテストがあります。しかし、私個人としてはこのテストに対して、そこまで気を張らなくても問題ないかなと思っていました。もちろん、テスト前に必死に勉強して成績の良いクラスに行くことは非常に良いことだと思います。しかし、自分の実力に合っていないと、毎週の講義への負担が大きくなり、最終的に講義に出席しなくなってしまっは元も子もありません。従って、最初のテストはいつも通りに受け、自分の実力を正しく教員に把握してもらうことが大切だと私は考えています。私のクラスで行われていた講義は、テキストや配布されるプリントなどに載っている英文法について詳しく教えてもらった後に、その英文法を用いてクラスの人達とコミュニケーションをとるというものでした。クラス全体が非常に明るい雰囲気、英語で話すことの楽しさを肌で感じる事が出来たので、非常に良い講義だったと思います。



みなさんは高知県の市町村について、どのようなイメージを持っていますか？ 少子高齢化や過疎化によって、元気のない地域が多いという印象を持っている人が多いのではないのでしょうか。初年次科目の「課題探求実践セミナー」では、高知県の様々な市町村に学生が向かい、地域住民と一緒に地域活動を体験することによって、地域を知ることができます。実際に、この授業を通して、高知県出身者である自分自身が地域に関して無知だったことに気づかされました。たしかに、少子高齢化や過疎化が著しく、地域課題になっていることは事実です。しかし、それ以上に地域住民の温かみや魅力があることも実感することができます。

地域協働学部の学びでは、高校教育までの座学と違い、フィールドワークやその後の振り返りワークなどから学びを追求していくことで、日々成長していくことができます。新入生のみなさんには授業を楽しみながら学びを深めてほしいです。



地域協働学部  
地域協働学科  
2年

藤田 朋子

初年次教育は全体的に「振りかえり」を重視していたと感じました。例えば、大学基礎論は外部からきた方のこれまでの生き方や感じたことを聞き、次回ではその人が大事にしていたこと、自分の人生設計に活かしたいことを振りかえりしていました。振りかえりをすることや他者と意見交換をすることで、講演の整理だけではなく、「自分は今後こうしていきたい」といった次へのアクションを考えるきっかけになりました。グループワーク、話を聞くことが苦手でも同級生と一緒に学びを深めるので、主体的に取り組めると思います。

大学は、初年次教育以外にも多種多様な授業が存在します。高校までとは違い、全て選択することができ、自己管理になります。新型コロナウイルスの影響で、今後もイレギュラーなことが多いと思います。不安なことがあれば、先輩に相談することをおすすめします。必ずアドバイスをいただけると嬉しいです。みなさんが素敵な大学生活が過ごせます様に。

土佐さきがけプログラム  
国際人材育成コース  
2年

芳村 里緒

本年度の大学基礎論は、対面授業ではなくほとんどがオンライン授業で行われました。そのような中でも、TSPでは高知県内のフィールドワークやオンラインで海外の大学生と交流を行うことができました。今回は、主に高知県内の幾つかの施設を訪問しました。“百聞は一見に如かず”といわれるとおり、やはり現地に行かないと分からないことは沢山あると感じました。そして、そのフィールドワークをもとにグループワークを行い、アメリカの海外協定校、ロードアイランド大学の学生とのオンライン交流の場で、プレゼンテーションを行い、活発な意見交流も行うことができました。高知の美術というテーマで発表しましたが、フィールドワークで直接観に行っていたこともあり、うまく伝えることができたように感じています。活動が制限される中、様々な方法・形で学ぶことを体験できたことは非常に有意義であり、今後の学生生活においても学びの意欲向上に繋がるのではないかと考えます。



特集

# 初年次科目

初年次科目授業の感想、意義、  
受講にあたってのアドバイス等

## Part 2 ▶ 教員から

人文社会科学部

バーゴイン・ショーン先生

### Kochi University Eikaiwa

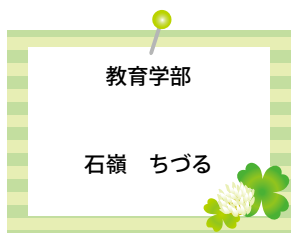
There is a special place in my heart for the Eikaiwa course at Kochi University, as it was my first real experience of university classroom conditions in Japan. This initial experience was way back in October 1997, very shortly after the compulsory course began in April 1997. Back in those days the classes consisted of larger numbers of students and there was no streaming, so levels of students in each class varied. With the focus of the Eikaiwa classes being on communication, both with the teacher and amongst students, I faced many challenges in those early days. Not least amongst these challenges was how to get students to communicate with each other in English, an activity that students were largely unfamiliar with.

As the course developed, streaming was introduced with an efficient method of determining each individual student's level. This was done through a speaking placement test. Using a common rubric, teachers, in teams of two, would score students conversing in groups on their pronunciation, grammar, vocabulary and their ability to keep a conversation going. One of the more important features of the placement test was that it enabled us to identify both high achieving students and students who had difficulties with English, so that they could be grouped together and taught more effectively. Having taught both the highest and lowest classes of the Eikaiwa course, I understand well the different needs of these students.

The Eikaiwa course is now moving into a new phase, as is the English foundations course, with Eikaiwa 1 in the first semester followed by Eikaiwa 2 in the second semester. Although the placement test will no longer be used, a form of streaming will still exist for Eikaiwa 2 in the second semester. One of the advantages of this new system is that students will now experience classes with two different teachers over the course of the year rather than just one, exposing students to different teaching styles and speaking styles.

Throughout its many different stages, the Eikaiwa course has posed challenges and provided rewards for both teachers and students. The acquisition of language is a lifelong journey and it is my hope that the Eikaiwa course is an experience that opens many doors on that journey.

## 課題探求実践セミナー(教育学部)の紹介

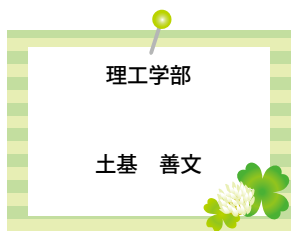


2020年度は教育学部の課題探求実践セミナーが大きく変わる年でした。これまでは、フレンドシップ事業(環境ボランティア活動及び地域・学校ボランティア活動)と活動の省察を通して、子ども理解を深めることが授業の目的でした。今年度からは高知市内の小・中学校で、学習支援チューター活動を実施することを通して、より早い段階から学校現場で教育実践を積み、その省察を通して実践的指導力の育成を図るプログラムが実施される予定でした。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、学修支援チューター活動を実施することができなくなりました。そこで対面授業を通して、学校現場について可能な限り体験的に学ぶことができるよう、工夫しました。

具体的には、小学校・中学校・特別支援学校の先生のお話を伺ったり、高知市の青少年育成協議会の方のインタビュー動画を視聴することを通して、学校現場や学校と地域との関わりについて理解を深めました。就職室の川井様のお話を伺って教員採用試験を中心とする進路について意識を高めることができました。地域協働学部の斉藤雅洋先生に地域社会の教育力について概説していただき、さらに学びを深めることができました。ご協力いただきました方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。12月以降は同期型オンライン授業での実施となりましたが、これまでの学びをいかしてケーススタディや問題解決型学習に取り組み成果を発表しました。オンラインでのグループワークでは、コミュニケーションが難しい面もあったと思いますが、多くの班が協力して活動を進めていました。

コロナ禍のため、学校現場での実践を通じた学びは次年度以降になってしまいました。このような状況だからこそ学べたこともたくさんあると思います。この授業での学びが、教育学部1年生の今後の大学生活とキャリアにいかされることを期待しています。

## 『逆境？ 順境？』



1年次の成績が4年生までを決めるという話は本当だろうか。決めるというのは言いすぎだが、少なくとも相関があり、その相関係数は例えば入試の成績などと比べればかなり大きいというのはよくきく話である。ググってみるといいかもしれない(ついでにいうと、ググったらそれが真実だとも思わないほうがいい。そういうことも初年次科目で習うことのうちで意味のあることだ...と思う。)

教員の立場から見ても、1年生の出だしを見ればその後の学生生活が浮かんでくる、というのでも確かなようで、とくに初年次科目を受けている様子を見てもそれはわかる気がする。なんというか、順調な人は目の光が違う。その理由は環境の変化など、いろいろ考えられるだろうし、人それぞれだろうけれど、コロナ逆境のこのご時世で改めてその時代のことを考えてみると、初年次科目というのは順境だから、ということもあったかも知れない。

順境、物事がうまく進んでいる境遇。「逆境はときに人間にとって辛いことがある。しかし順境によく耐える人一人に対して、逆境に耐えられる人は百人もあろう。」(カーライル)。なにしろ入試はくぐり抜けたわけだし、新しい科目も1年生相手とあってはまだそこまで踏み込んでこない。講義で出てくる例も、今までの扱い方でもなんとか済んだりするから、無理に新しいことを覚えなくても良いように思われる。自然ナメブが多くなり、あるときスランプに、それがいつのまにか定着。それまでが自信過剰だったためこんどは急に自信がなくなる。しだいに鈍る目の光...とまあそんな構図も見えるわけだが、今はそれどころではないかも知れない。

願わくばこのコロナの時代が早く収束をしてくれることを。





医学部  
医学教育創造・推進室

高田 淳



## 医学科での学問基礎論の学びについて

医学科では初年次の学生が医学について学びの展望を持てるように、これまでの各担当教員が工夫をしてきました。2009年までは医療社会学が専門の教員が担当で、近代医学史、学問のあり方、学問の論理形式・推論形式などを学び、将来の医学習得、医学研究・医療実践に生かしていく為の学びでした。

2010～2015年の間は高田(循環器内科医)が担当し、臨床医学入門、医学英語入門を主に学習しました。入学直後の学生が、2年生以降学習する専門分野への興味を持ち、一般的な学習意欲を維持できることが目標で、初年次ではありますが、臨床科目の一つである循環器内科学の基礎学習を通して、特に臨床医学の学び方、考え方の初歩を学びました。また医学を学ぶにあたって重要となる、医学英語の基礎についても学習してもらいました。主なテーマは医学科カリキュラムの概説、卒業直前の6年生からのメッセージ、循環器入門、血圧、動脈硬化、東洋医学入門、心臓弁膜症、心不全、不整脈などについての基礎学習でした。

2016年以降現在までは、精神科を専門とする藤田博一准教授が担当で、臨床の場で患者さんへの対応で重要な、行動科学、行動医学入門を学習しています。具体的には脳の働きと構造、記憶、学習、感情、睡眠などのしくみについて学んだ後で、患者さんが自分の健康に積極的に関心を持つための行動変容を促す方法についても学んでいます。それぞれの時期で多様な内容がテーマとなっていますが、現在、医学教育は大きな転換期を迎えています。世界標準の医学教育が求められ、数年後には本学医学部の教育全般について国際認証評価を受ける予定です。明治以降近代の医学教育まで多くの改革が行われましたが、これからの皆さんには最も新しい形の学問基礎論を学んでもらいたいと思います。

## コロナ禍でのグループワーク実施について考える

まずは私が所属する農芸化学科の初年次科目の内、1年生第2学期の必修科目である「学問基礎論」の実施方法を紹介します。昨年度から第1回目の講義では、学部全体で学生総合支援センター(修学支援ユニット)の教員による「レポートの書き方」を行っている。第2回目以降は学科全教員がオムニバス形式で、「農芸化学分野(生物環境化学、動植物健康化学、微生物化学)の課題を発見し、情報を収集し、論理的に説明するためのスキルを習得する。」講義を行っている。昨年度までは学生4名程度でのグループワークを中心に行っていたが、コロナ禍である本年度は急遽、対面形式(フェーズの変更により途中からオンライン形式)で教員による話題提供と問題提起を行い、学生にはその課題を各自考えてもらうことにした。

来年度以降も暫くは対面形式のグループワークを行うことは困難であると予想し、ここでオンラインでのグループワーク実施について考えてみた。事前準備として、快適・安心なネット接続環境をまずは整え、その後会議ツールの使い方やカメラ写り、騒音など実施部屋の環境を予め確認しておく。実際に友人や家族同士でツールを使って練習しておけば、緊張せずにグループワークに臨むことが出来るであろう。次に、実施時に気を付けたいことを挙げる。対面の場合ではその場の雰囲気や発言のタイミングが掴める。しかし、オンラインでは譲り合いによる時間ロスや発言がかぶることもあるであろう。そこで、手を挙げてから発言するなど画面越しでも分かりやすいルールをグループ内で予め決めておいた方が良い。また、画面が分割され各人の表情が伝わりにくい。そのため、対面時と比べ表情や動きを大袈裟にした方が良いと思う。一方でオンラインのメリットとして、ツールを活用することで簡単に情報共有出来ることが挙げられる。ファイルをリアルタイムで共有し意見し合うことでグループワークの質が上がるであろう。暫くはコロナ禍の影響を考えないといけないであろうが、様々な講義形式の可能性を探っていきたい。



農林海洋科学部

若松 泰介



地域協働学部

中澤 純治



## 地域協働学部における学問基礎論の取り組み

地域協働学部の設置後の4年間は、主として問題の構造的把握や実践的解決の指針を獲得することを目標として学問基礎論を実施してきました。具体的には、あらかじめ事前課題としてポンチ絵を描かせた上で、それをグループ内で発表させ討議し、その知見をグループごとにまとめ、受講者全体で共有を図る方法をとってきました(詳しくはPipe Line No.53 鈴木先生のまとめを参照ください)。

昨年度からは、開設以来、地域協働学部の学生達が地域で実践してきた取り組みを題材として取り上げ、地域協働とはいったいどのようなものであるかを考えること、また協働活動に不可欠である地域を理解するための基礎となるコミュニケーション力、共感力、関係性理解力、情報収集力、状況判断力、読解力等を、グループワークによる実践的なトレーニングを通じてこれらの能力の向上を目指すことを目標として実施しています。

そのための到達目標として以下の4つを掲げています。①地域課題の解決に向けて必要な要素に関心を持つ、②地域を理解するための基礎的な力を身に着ける、③グループワークにおける実践的なトレーニングを通じて能力の向上を図る、④社会の中の答えのない問題、多面的なものを見方を理解すること、です。



これまでの進め方と異なるのは、実践してきた学生自身が教材となることでしょうか。4年生にはこれまで実践してきた実習地での活動や活動の自己評価、自分が考える協働とは何かを提示してもらい、それをテーマに1年生は協働とは何かということを考えていきます。その中で、どのようなアプローチがあり、どのような能力が必要で、さらに様々な考え方があることを学んでいってほしいと考えています。今年度は新型コロナウイルスのため非常に制約の多い中での実施でしたが、学生達の「学びたいという意欲」を強く感じた年でもありました。その思いを胸に、今後も積極的に学びを展開させて欲しいと思います。

土佐さきがけプログラム  
国際人材育成コース

前西 繁成



## 大学基礎論

土佐さきがけプログラム (TSP) の大学基礎論を担当して 8 年目になります。2020 年は新型コロナウイルスの影響で特に第 1 学期はオンライン授業が中心となったため、大学基礎論の一部を第 2 学期に実施しました。本学はスーパー・リージョナル・ユニバーシティを目指しています。11 月に 2 日間高知県内のフィールド学習を実施することができました。訪問した施設の一部を紹介します。どこの施設でも、しっかり新型コロナ対策が実施されていました。黒潮町で開催される砂浜美術館・Tシャツアート展は、5 月開催が 11 月に延期され、運よく訪問することができました。土佐清水市の足摺海洋館が 2020 年 7 月に「新・足摺海洋館・SATOUMI」としてリニューアルされ、竜串湾に住む多くの生き物を見ることができました。梶原町には、東京オリンピック競技場の設計者である隈研吾氏が手掛けた小さなミュージアムが開館しています。このように高知県には非常にユニークな施設が多くあることも大きな発見でした。

授業では、これらを見学した学生たちにより「施設を通じた高知の活性化」についてグループワークを行い、その結果はオンラインを通じて英語で発表しました。アメリカの海外協定校も全面的なオンライン授業となっており、ロードアイランド大学とは、英語と日本語で交流するプログラムをの場をトライアルで設けていました。相手校の教員のご協力を得て、その場でグループワークの成果を発表する機会を得ることができました。多くのアメリカ人学生から質問も出され、活発な議論の場になりました。

TSP はすでに新生生の募集を停止しており、今回が TSP としての最後の大学基礎論となりました。2020 年はオンライン授業が中心となりましたが、そのような環境において、実施したフィールド学習やオンラインでの英語プレゼンテーションなど、事例として参考になればと願っております。





## 自立力を創造する「オンライン授業」。(仮)

大学教育創造センター 杉田郁代

(自己点検・自己評価部会)

2020年春、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行に伴い、本学において感染症予防対策の観点から、「学生の学びを止めない」ために、オンライン授業が始まりました。教員は、試行錯誤をしながら、オンライン授業に取り組んできました。

オンライン授業は、文部科学省から出された通知によって、多くの大学において取組が始まりました。当初、文部科学省の通知には、遠隔授業と記載されていました。通知は、「今後、学生の学修機会を確保するとともに、感染リスクを低減する観点から、いわゆる面接授業に代えて、遠隔授業を行うことが考えられること。その際、平成13年文部科学省告示第51号(大学設置基準第25条の規定に基づき、大学が履修させることができる授業について定める件)等に従い行う必要があるところ、同告示第2号等の規定に基づき、テレビ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行うことは可能<sup>1)</sup>。」と記されていたことから、これに伴い本学では、Teams (Zoom) を用いた同時双方向型、Moodle、KULASを用いたオンデマンド型授業が行われてきました(本稿で遠隔授業をオンライン授業と呼ぶ)。

学生の皆さん、このオンライン授業を通して、授業に関わる知識以外に、どのような力を身に付けたのでしょうか? 大学教育創造センターが行ったオンライン授業に関するアンケート結果によると、設問「オンライン授業を通して、あなたが頑張っていることを教えてください」に対して、1位「課題やレポートの提出」が挙げられていました。また、「提出期限を守る」、「課題の締切日などの情報を把握し、計画的に終わらせる」などが挙げられていました。したがって、オンライン授業の受講にあたって、課題やレポートの提出に関わり、提出期限を守るために、締め切りを確認し、計画的に終わらせるという自己管理を行っていたことが、この調査結果から明らかとなっています。みなさんは、オンライン授業を通して、自己の学修を管理するという力を身に付けたのではないのでしょうか。

本学では、学生に身に付けてほしい10+1の力があります。10の力は、専門分野に関する知識、人類の文化・社会・自然に関する知識、論理的思考力、課題探求力、語学・情報に関するリテラシー、表現力、コミュニケーション力、協働実践力、倫理観、自律力の10の力で構成されています。+1は、それを全て統合する力のことです。オンライン授業において、自己の学修を管理するという力は、自律力に相当するのではないのでしょうか。自律力の定義は「自分の行動に責任を持ち、時間を守るなど社会人として求められる自分をコントロールする力」です。したがって、オンライン授業を通して、自律力が育まれたのではないのでしょうか。



最後に、本稿では、学生の皆さんに、この一年の学びについて、自己の自律力について気づいてもらいたく、本学で学生に身に付けてほしい10+1の力を紹介しました。この10+1の力については、定期的にセルフアセスメントシートを用いて、学生の皆さんに振り返りを行ってもらっています。また、この結果については、e-ポートフォリオに格納されています。ぜひ、自己の成長を振り返る際に、確認してみましょう。

本学のホームページに令和2年度第1学期に大学教育創造センターが行ったアンケートの結果は、下記のURLにおいて公表されていますので、ぜひ、確認してください。

[http://www.kochi-u.ac.jp/\\_files/00145008/201028a.pdf](http://www.kochi-u.ac.jp/_files/00145008/201028a.pdf)

引用出典：文部科学省『令和2年度における大学等の授業の開始等について(通知)』2020年  
[https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt\\_kouhou01-000004520\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf)

## 共通教育係よりご挨拶

高知大学 学務部 修学支援室 学務課全学・共通教育係 山中 大輔

令和2年4月に高知大学に採用となり、学務課全学・共通教育係に配属となった山中と申します。日々の業務内容は、学生対応や授業実施のサポート、共通教育棟の管理などなど共通教育に関すること全般を担当しています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、なかなか思うように授業の実施やイベントを今まで通りに行うということができない年でした。おそらく、これから先コロナの状況がよくなったとしても、「すべて元通り！」というわけにはいかないでしょう。ある一定以上の対策をしたうえで大学生活を送ってもらえることになると思います。学生のみなさんには、社会の変化だけではなく、大学の変化にも対応してもらわなければなりません。

大学の変化の例として、令和2年度以前の入学生は初年次科目として、「大学英語入門(2単位)」と「英会話(2単位)」がありました。この2科目はいずれも週に2回授業がありました。令和3年度以降はカリキュラムの変更により次のようになりました。

### 【人文社会科学部の学生の場合】

#### ・変更前(令和2年度以前入学生)

英会話(2単位)：火曜3限・木曜3限(1学期)

大学英語入門(2単位)：火曜3限・木曜3限(2学期)

#### ・変更後(令和3年度以降入学生)

英会話Ⅰ(1単位)：月曜4限(1学期)

英会話Ⅱ(1単位)：月曜4限(2学期)

大学英語入門Ⅰ(1単位)：木曜3限(1学期)

大学英語入門Ⅱ(1単位)：木曜3限(2学期)



履修登録方法などは、履修案内に記載してあるので確認してください。

みなさんが大学生活を送る中で困ったことや、分からないことがあったときには教職員をぜひ頼ってください。

共通教育に関することなどでお聞きになりたいことがある方は、

メール ([gm06@kochi-u.ac.jp](mailto:gm06@kochi-u.ac.jp)) で問い合わせさせていただくか、共通教育1号館2階の学務課全学・共通教育係の窓口にお越しください。

### 編集後記

優れた者が生き残るのか、生き残った者が優れているのか。どこかで聞いたことがあるような問答ですね。周知のように、昨年、世相は大きな変化に見舞われ、現在もその最中にあります。元の世界に戻ってほしいという願望がある半面、この変化を受け入れ、むしろ好機として自己の潜在能力の発揮に意識と力を注ぐことも戦略としてはアリだと思います。(S)



高知大学共通教育広報誌 [ハイブライン] PipeLine No.57

発行 / 高知大学共通教育実施委員会

編集 / 共通教育実施委員会広報部会

〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1

☎088-844-8168(学務課全学・共通教育係)

発行日 / 2021年3月

制作 / ㈲西村謄写堂

広報・記事についてのご意見をお待ちしています。

Mail : [gm06@kochi-u.ac.jp](mailto:gm06@kochi-u.ac.jp)